

令和元年度  
学校関係者評価報告書

令和元年8月21日(水)

学校法人 宮崎総合学院  
宮崎情報ビジネス医療専門学校

## 令和元年度第1回「学校関係者評価委員会」報告について

宮崎情報ビジネス専門学校では、平成23年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について点検し、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、平成24年6月（第1回）、平成25年7月（第2回）に、学校法人宮崎総合学院のホームページ上で公表いたしました。

更に、本年度は文部科学省の「職業実践専門課程」に係る公示に併せて、学校単体での「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関係の深い病院関連や企業関連の方々に、本校の教育活動や学校運営に関してご意見、提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、より良い改善を図っていくことといたしました。

今回、平成30年度第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、平成29年度に続き貴重なご意見、ご指摘を頂きました。ご意見・ご提言をいただいた皆様にもあらためて感謝申し上げます。

今回、平成30年度の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界、地域、学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。

引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和元年8月

宮崎情報ビジネス医療専門学校

校長 栗山 重隆

## 1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した、「平成30年度自己点検・評価報告書」について、本校に関係の深い企業等11名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）及び教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

自己点検・評価報告書（平成30年度版）と併せてご覧頂きたい。

## 2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員 敬称略	会社（企業）名	役職名	任期	備考
川崎 友裕	一般社団法人 宮崎県情報産業協会	会長	R3. 3. 31	(株)MJC 社長 (欠席)
鈴木 斎王	宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター	准教授	R3. 3. 31	医師・医学博士
丸山 博史	社会医療法人同心会	理事 事務局次長	R3. 3. 31	古賀総合病院 (欠席)
丸山 こずえ	独立行政法人国立病院機構 都城医療センター	副部長	R3. 3. 31	
南 克弘	株式会社インタープロ	社長	R3. 3. 31	
井上 雅博	株式会社 フェニックスシステム研究所	イー・アント・エム グループ PMO 担当	R3. 3. 31	
木下 昌徳	株式会社 ニューウェルシティ宮崎	取締役 総支配人	R3. 3. 31	
笹山 公久	株式会社坂下組	総務部長	R3. 3. 31	宮崎本社
下笠 敏徳	宮崎県幼稚園連合会	副会長	R3. 3. 31	学校法人三育学園 光が丘幼稚園 理事長
小森 晴美	学校法人福原学園 野の花幼稚園	主任	R3. 3. 31	
河野 大樹	株式会社メガ・テクノロジー	主任	R3. 3. 31	卒業生

### 3. 委員会次第（概 要）

(1) 開会

(2) 校長挨拶

省略

(3) 委員長選任

宮崎大学医学部附属病院准教授 鈴木齋王委員を委員長に選出した。

(4) 令和元年度 委員会議事録確認告

校長より議事録確認が行われた。

(5) 令和元年度 学校自己点検評価報告

教務部長より、各項目についての報告を行った。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見やご指導をいただいた。

(詳細は後記のとおり)

(7) 閉会

### 4. 討議・意見交換について

各表会員から、評価の低い項目についてご意見やご指導をいただいた。

#### ◇ 評価項目 2-16 (企業での職場実習)

・評価が4になるための基準はなにか (河野委員)

⇒ 全ての学生が実習に行く事だと考えている。学科によってばらつきがあり、医療事務・保育は100%、総合ビジネスや情報系が非常に低い。(樋口部長)

・情報系の学生の実習が少ない事が、離職率に繋がっているように思える。実際の現場を知らない事が、ミスマッチにつながる。職場実習を増やせるとよい (河野委員)

⇒ 職場実習は情報系の学科の課題である。それでも短期のインターンシップ等は増えてきている。今後は2年に1回ほど、長期のインターンシップができるようにしたい。また、問題のある学生の指導も検討しなければならない (樋口部長)

#### ◇ 評価項目 2-21 (高等教育機関との連携講座)

・やる気があっても機会がなかったのであれば、仕方ないのではないかと (井上委員)

⇒ 積極的な働きかけはしていないが、高校との連携はしている。そのような形では他の教育機関とは連携している (樋口部長)

#### ◇ 評価項目 3-3 (図書室について)

・図書館用のスペースを作る事は考えていないのか (鈴木委員)

- ⇒ 新しいビルにはクラークが入る。それにより2号館が空くのだが、他の学校と建物の取り合いになっている。それによって図書スペースが作れるかどうかが変わってくる。小さな部屋が確保できれば図書館を作りたい（樋口部長）
- ・ 駅周辺には図書館がない。駅周辺の学校の共用図書館を立てる事はできないか。宮崎市に働きかけて補助金とか出してもらえるといいのだが（鈴木委員）
  - ⇒ 看護学校は必ず図書館が必要になるので、持っているはず。なかなか難しい問題である（樋口部長）
- ・ 図書館は必要だと思う。書籍が少ないのであれば、大学から借りるなどの手もあるのではないか。環境整備は早めがよい（丸山委員）
- ・ 「図書館」ではなくても「図書コーナー」程度でもよいのではないか。「本のある部屋」が重要ではなく、「本が身近にあるのか」が大事だと思う。専門的な知識を得るためには本は必要（下笠委員）

◇ 評価項目 3-5 （就職支援のための場所）

- ・ 昨年から評価がかわっていないが、そのような場所は作らないのか（笹山委員）
  - ⇒ この評価シートは大学をベースとして作られており、大学などはキャリア支援の部屋などがある。本校は就職支援に特化した部屋はない。ただし、授業でPCは利用するので休み時間や放課後に検索できるし、担任が就職支援を行っている。専用の部屋や人員はいないという事で「3」という評価にしている（樋口部長）

◇ 評価項目 3-13 （設備・備品の点検・管理）

- ・ 管理ができていないというのは問題なのでは（笹山委員）
  - ⇒ 施設については点検などを行っているが、紙などのような細かい備品までは管理できていない。例えば紙代などで年間いくら使っているかなどのコストは出しているが、定期的チェックまではできていない（樋口部長）

◇ 評価項目 6-1 （社会的活動：ボランティア等）

- ・ ボランティアなど、学生は積極的に参加しないのか。活動などをSNSに上げることができれば、宣伝にもなるのではないだろうか（小森委員）
  - ⇒ 今年「大淀川クリーンアップ作戦」に参加したわけだが、積極的というわけではない。授業時間外での活動の場合、遠方からくる学生の事を考えると、学校としても積極的には言えない。経済的に苦しい学生は、土日はアルバイトをしているので、学校は「参加できるなら、参加を」といったスタンスでいる（樋口部長）
- ・ 短大などはボランティア実習がある。ボランティアを通して人とのつながりも出てくる

ので、授業の範囲でできるのであれば、ぜひ検討してほしい（小森委員）

- ・ボランティアなど、学生は積極的に参加しないだろう。学校のネームバリューを上げる意味でも、学生への誘導をしてほしい。学校の評価があがれば、学生自身の評価にもつながる（木下委員）
- ・大学生の就職活動だと、ボランティアは必須。科目にしてもいいのではないか。ボランティアすることで、ホスピタリティにもつながると思われる（南委員）

#### ◇ 評価項目 7-5（定期的な防災訓練）

- ・避難訓練は年に1回でいいのか（小森委員）  
⇒宮崎総合学院では年に1回としている。その際には「地震」と「津波」の二つの災害を想定しての訓練となっている。（樋口部長）

#### ◇各委員からのご意見

- ・4段階評価は珍しいが、どのような基準なのか。中間点がないのがよい。中間点があると良いのか悪いのかがわかりにくい（木下委員）  
⇒文部科学省がサンプルを提示していた。それを用いて作成している。全国の専門学校の経営研究会に参加している学校は、この様式を用いている。（樋口部長）
- ・項目に保健室の事が無いのだが、保健室はあるのか（南委員）  
⇒項目にないだけで、保健室はある（樋口部長）
- ・評価を出した根拠資料がない。すべてを準備する事は無理だろうが、少しずつでも根拠資料を出して、検討していけるとよいのではないだろうか（鈴木委員）

以上の意見を頂き閉会した。

—以 上—